

石廬使う南行の離盃を奉る日くし山  
花はくは乃軟なくんたう妖峰のくき  
となじいしつふくくふくちいしにうし

花おくう山空

共成

なめりくしじら 那山

我のみくをねく

葛赤

こらみく 出さう後

けりあうはくを

月居

ゆえんよあはちを

押急はくを

不業

いふくねのう

流く花う何

一峰

みね乃 京更

乙卯春二月

